

# 青森県五所川原市方言



青森県方言区画図

【青森県の方言区画】青森県は三方を海に囲まれ、中央部には南北に八甲田連峰（奥羽山脈）が走っていることで、気候や風土も山脈を境に二分されている。東側を南部地方、西側を津軽地方といい、藩政時代にはそれぞれ盛岡藩（南部藩）、弘前藩（津軽藩）と別々の統治下にあった。このような地理的条件、社会的条件もあいまって、方言の区画も南部方言、津軽方言と二つに大別される。

南部地方は、さらに三八地域、上北地域、下北地域に分けられ、方言もそれぞれ異なるとされている。特に下北方言については、南部方言を基層にしながら、陸奥湾を通じた交流によって津軽方言的な面があったり、津軽海峡を通じた交流によって北海道方言的な面があったりと、独特なものがあるという。

一方で津軽地方は、細かな違いに目をつけると、例えば内陸部よりも沿岸部のほうが一段型動詞の命令形が「基幹+レ」になりやすいというような差はみられるものの、比較的均質であるとされている。

【五所川原市方言について】五所川原市は青森県の西部、津軽地方にあり、津軽平野の中央部に位置する交通の要衝として栄えた都市である。話されていることは津軽方言に属す。同じ津軽の中でも弘前市は城下町として発展しており、弘前市方言はこと

ば違いも「上品」とされ、「津軽の標準語」と評価される。ここには男女差（特に女性語）も見られ、敬語表現も発達しているが、五所川原市方言においては女性語は活発ではなく、丁寧形はあるものの特徴的な敬語表現もほとんど見られない。

【表記について】有声母音に挟まれたカ・タ行は有声化するため、カ行はガ行/g/、タ行はダ行/d//z/で示す。また語中語末のガ行は鼻音化するため、カ<sup>h</sup>行/ŋ/で示す。同様にザ・ダ・バ行は前鼻音を伴って現れるが、これは表記には反映させない。シとスの区別は、伝統的にはなく、シに近いとされている（此島 1968）。しかし、本稿の記述にあたっての調査ではシとスは近い音ではあるものの、区別は保たれているため、本稿ではこれを書き分ける。

方言音については以上の基準によって表記するが、文献から引用する例文では原典での表記に従う。

【調査概要】本稿の記述は、主に筆者（1977 年生まれ、男性、0～18 歳青森県五所川原市、19～24 歳神奈川県川崎市、25～35 歳宮城県仙台市、36 歳～現在兵庫県神戸市）の内省と観察によるが、佐藤和之編著（1997）や田附（2004）も参考にした。田附（2004）は未公開資料のため、この調査協力者の属性も以下に記しておく。1936 年生まれ、男性。外住歴は 21～25 歳のときに津軽郡内の他町村にいた程度で、元小学校教諭。調査当時（2003 年 5 月）67 歳。

例文はすべて用例出典の「市史」と「方言集」から採集した。「市史」には語彙集や談話資料が収録されており、語彙集の例文や談話の文字化資料から引用している。「方言集」は隣町である木造町（現在のつがる市）の方言集だが、用例が豊富であり、また五所川原市の方言としても自然な例文であると判断できるものが多いため、これを採用した。いずれも方言の例文はカタカナ書きで記されており、共通語訳も付されているため、例文は表記、共通語訳とも基本的に原典に拠る。ただし、共通語訳においてそのままではわかりにくい箇所については適宜修正して記載した。

## 青森県五所川原市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終止類	断定非過去	カグ	ミル	クル	ス(ル)
	断定過去	カイダ	ミダ	キタ	シタ
	命令	カゲ カガナガ	ミロ ミレ ミナガ	コイ コナガ	セ シロ サナガ シナガ
	禁止	カグナ	ミ(ル)ナ ミンナ	ク(ル)ナ クンナ	ス(ル)ナ スンナ
	意志	カグ カグベ カグア	ミル ミ(ル)ベ ミルア	クル クルベ クルア	ス(ル) ス(ル)ベ ス(ル)ア
	推量	カグベ カグビョン	ミ(ル)ベ ミ(ル)ビョン	クルベ クルビョン	ス(ル)ベ ス(ル)ビョン
	勧誘	カグア カグベシ	ミルア ミ(ル)ベシ	クルア クルベシ	ス(ル)ア ス(ル)ベシ
接続類	連体非過去	カグ	ミル	クル	ス(ル)
	連体過去	カイダ	ミダ	キタ	シタ
	中止	カイデ	ミデ	キテ	シテ
	仮定	カゲバ カイダラ カイダツキヤ	ミレバ ミダラ ミダツキヤ	クレバ キタラ キタツキヤ	セバ スレバ シタラ シタツキヤ
派生類	否定	カガネ	ミネ	コネ	サネ シネ
	丁寧	カギス	ミス	キス	シス
	使役	カガヘル	ミサヘル ミラヘル	コサヘル コラヘル	サヘル
	受身	カガイル	ミライル	コライル	サイル
	可能肯定	カゲル カグニイー	ミレル ミ(ル)ニイー	コレル ク(ル)ニイー	サイル ス(ル)ニイー 《デギル》
	可能否定	カゲネ カガイネ	ミレネ ミライネ	コレネ コライネ	《デギネ》 サイネ
	自発	カガサル	ミラサル ミササル	コラサル コササル	ササル
	尊敬	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)	(該当形 欠)
	継続	カイデラ	ミデラ	キテラ	シテラ
	希望	カキテー	ミテー	キテー	シテー
のだ	カグンダ カグンズ	ミルンダ ミルンズ	クルンダ クルンズ	ス(ル)ンダ ス(ル)ンズ	

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
g	書く kag・u	カイ-ダ	gをiにする。-タが-ダになる。「行く」ig・uはgをQ(促音)にし「イッ-タ」。
ŋ	嗅ぐ kaŋ・u	カイ-ダ	ŋをiにする。-タが-ダになる。
s	出す das・u	ダシ-タ	音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。
d/z	立つ taz・u	タツ-タ	d/zをQ(促音)にする。
n	死ぬ sin・u	シン-ダ	nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
b	飛ぶ tob・u	トン-ダ	bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
m	飲む nom・u	ノン-ダ	mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。
r	切る kir・u	キッ-タ	rをQ(促音)にする。
w/ø	吸う su(w)・u	スッ-タ	wをQ(促音)にする。

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	静か(だ)	学生(だ)
終止類	断定非過去	アゲー	シズガダ	ガクセーダ
	断定過去	アゲガッタ アガガッタ アゲクテアッタ アガクテアッタ	シズガダッタ シズデアッタ	ガクセーダッタ ガクセーデアッタ
	推量	アゲーバ アゲービョン	シズガダバ シズガダビョン	ガクセーダバ ガクセーダビョン
接続類	連体非過去	アゲー	シズガダ	《ガクセーノ》
	連体過去	アゲガッタ アガガッタ アゲクテアッタ アガクテアッタ	シズガダッタ シズガデアッタ	ガクセーダッタ ガクセーデアッタ
	中止	アゲクテ アガクテ	シズガデ	ガクセーデ
	仮定	アゲーバ アゲガッタラ アガガッタラ	シズガダバ シズガダッタラ	ガクセーダバ ガクセーダッタラ
派生類	否定	アゲグネ アガグネ	シズガデネ	ガクセーデネ
	なる	アゲグナル アガグナル	シズガニナル	ガクセーニナル
	副詞	アゲグ アガグ	シズガニ	(該当形 欠)
	断定非過去(一時的状態)	アゲクテラ アガクテラ	シズガデラ	ガクセーデラ
	丁寧	アガイデス △アゲゴス	シズガデス	ガクセーデス
	のだ	アゲーンダ アゲーンズ	シズガダンダ シズガダンズ	ガクセーダンダ ガクセーダンズ

## 1. 動詞の活用の特徴

### (1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型（以下「多段型」）と基幹一段型（以下「一段型」）がある。およそ、多段型には a 類（「書く」・「居る」・「死ぬ」類）動詞、一段型には b 類（「見る」・「起きる」・「開ける」類）動詞が所属する。多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ段の 4 形、および音便形がある。「カグ」（書く）の場合、カガ・ネ (kag·a-ne)、カギ・ス (kag·i-su)、カグ (kag·u)、カゲ (kag·e)、カイ・ダ (kai-da) など。語幹末子音には、g (ガ行)、ŋ (カ° 行)、s (サ行)、d/z (ダ行)、n (ナ行)、b (バ行) m (マ行)、r (ラ行) w/ø (ワ行) がある。ただし、共通語のワ行の多段型動詞「買う」「笑う」「思う」などは「カル」「ワラル」「オモル」などのようにラ行となっているため、ワ行の動詞は、「会う」「吸う」などの数語のみとなっている。また、「待つ」は通常の多段型 d/z 語幹動詞と同じ活用のほかに、断定非過去形マズル、推量形マズルベ、仮定形マズレバ、命令形マズレをもつ。

一段型には、ミ・ル (mi-ru)、オギ・ル (ogi-ru) など基幹がイ段の動詞と、デ・ル (de-ru)、アゲ・ル (age-ru) など基幹がエ段の動詞がある。一段型動詞の r 語幹化に関しては、「ミル」を例にすると、断定非過去形ミ・ル (mi-ru)、仮定形ミ・レバ (mi-reba)、受身形ミ・ライル (mi-rairu) のほか、使役形ミ・ラヘル (mi-raheru) 自発形ミ・ラサル (mi-rasaru) や命令形ミ・レ (mi-re) などがあり、共通語よりも一歩進んだかたちが見受けられる。加えて、語によってはより r 語幹化が進んでいるものがある。「跳ねる」「舐める」などがそれであり、これらには上記の活用形の他、丁寧形ハネリスや断定過去ハネッタもあり、ほぼラ行の多段型と変わらないような活用形となっている。

不規則な活用をする動詞として、「クル」（来る）、

「ス（ル）」（する）がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」は、キ・タ (k·i-ta)、ク・ル (k·u-ru)、コ・ネ (k·o-ne) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の 3 段にわたる。「ス（ル）」は、否定形シ・ネ (s·i-ne)、断定非過去形ス・ル (s·u-ru)、仮定形ス・レバ (s·u-reba)、命令形シ・ロ (s·i-ro) のように共通語と同じような不規則な活用もするが、それぞれサ・ネ (s·a-ne)、ス (s·u)、セバ (s·e-ba)、セ (s·e) のような活用も持っており、{s}が語幹のいわゆ

る五段化（厳密にはオ段がないため、四段化）した活用も持ち合わせていると言える。

### (2) 各活用形の特徴

#### 〈断定非過去形〉

多段型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。一段型動詞は「ミル」など「基幹（＝語幹）＋ル」、「来る」は「ウ段形＋ル」で「クル」、「する」は基幹ウ段形「ス」、または「ウ段形＋ル」で「スル」となる。これは、連体非過去形と同形である。

- ・イッドワアル (井戸はある) [市史]
- ・ヨメ ムゲーニ イグ (嫁を迎えに行く) [市史]

#### 〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」が後接する。これは、連体過去形と同形である。「タ」が「ダ」となるのは、多段型動詞の場合はその前がイ音便及び撥音便のとき（「多段型動詞の基幹音便形」の表参照）であり、一段型動詞の場合は「着る」以外はおしなべて「ダ」となる。「来る」「する」の場合は「キタ」「シタ」であり、「ダ」とならない。

- ・エー ワ ハッジメデキータ (ええっ、私初めて聞いた) [市史]
- ・ニク° ルマデ イッター (荷車で行った) [市史]
- ・ン ワラデツクッタ (うん、わらでつくったの) [市史]
- ・タルダゲ カリダデバナ (樽だけ、借りたんだよ) [市史]
- ・アノ ヨメキタ ヨメキタッテ サワイデ (あの、嫁来た、嫁来たって、騒いで) [市史]

#### 〈命令形〉

本文多段型動詞は基幹エ段形になる。一段型動詞は「基幹＋ロ」、または多段型 r 語幹動詞の命令形に対応するかたちである「基幹（＝語幹）＋レ」となる。「来る」は「コイ」、「する」は「イ段形＋ロ」または基幹エ段形となる。

さらに、多段型 r 語幹動詞のうち、基幹-l 拍目（つまりラ行音の前の拍）がイ段及びエ段の語は、「切れ」がキロ (kir·o)、「蹴れ」がケロ (ker·o) のように、基幹オ段形になることがある。これは、一段型動詞

との形態的類似性によるものと考えられる。

- ・ウミノイロ マト アツグ ヌレ (海の色を、もっと濃く塗りなさい) [方言集]
- ・マト コベ サケ°ロ (もっと頭を下げろ) [方言集]
- ・イモ フケダガ、トバシ タデデ ミレ (芋が蒸れたか、料理用の長い箸で突いてみなさい) [方言集]

また、ナガがつく形もある。これは、多段型動詞は「基幹ア段形+ナガ」、一段型動詞は「語幹+ナガ」、「くる」は「コナガ」、「する」は「サナガ」または「シナガ」という形式となる。多段型 r 語幹動詞の場合、ラが消失することもある。

- ・ハヤグ エガナガ (早く行きなさい) [方言集]
- ・ナンボ ナマグラダ オドゴダバ、モスコシピント シナガ (本当にぐうたらな男だね、もう少しシャキットしなさい) [方言集]
- ・エネエネ ナドサ マガヘルハンデ、チョンドエグ ヤナガ (いいよいいよ、諸君にまかせるから、丁度いい案配にやってくれ) [方言集]

#### 〈禁止形〉

いずれの動詞も断定非過去形に「ナ」が後接する。断定非過去形の末尾がルで終わる動詞ではルが撥音化して「ミンナ」「クンナ」のようになることもある。また、このルヤンが消失し、「ミナ」「クナ」などにもなる。

- ・コツツァ クルナ (こっちへ来るな) [方言集]
- ・オイダモノサ ベロカラド テ ツケナ (置いてあるものに、むやみやたらに手をつけるな) [方言集]

#### 〈意志形〉

意志を表す形式として3形式存在する。一つは断定非過去形と同じ形式、一つは断定非過去形に「ベ」が後接する形式、残りの一つは断定非過去形に「ア」が後接する形式である。基幹オ段形の長音形は、共通語的という意識があり、あまり用いられない。断定非過去形に「ベ」が後接する際、多段型 r 語幹動詞、一段型動詞および「する」は、ルが消失することもある。また断定非過去形に「ア」が後接する際、母音が融合し、極端な場合、基幹ア段形のような形になることもある。例えば、以下の最後の例ではケ

ル(くれる)+ア>ケラとなっている。

- ・ワモ ミメエコニ エグド モテランダ ハデ、ヘバ イッショニ エグベシ (私も見舞に行こうと思っていたんだから、そうすれば一緒に行きましょう) [方言集]
- ・ワイ! ドスベ。ワイ! コマッタデア (わあ! どうしよう。わあ! こまったなー) [方言集]
- ・ママ ニギ° ツテケラ (ご飯をにぎってあげよう) [市史]

#### 〈推量形〉

各動詞とも断定形に「ベ」または「ビオン」が後接する。非過去形するとき、多段型 r 語幹動詞、一段型動詞および「する」は、ルが消失することもある。「ビオン」は「ベ」+終助詞「オン」に由来するもので、「ベオン」「ベヨン」「ビヨン」などのように発音されることもある。

- ・ワノ タバゴデ ムヘダベ、メヤグ シタナ (私の煙草でむせたらう、迷惑したね) [方言集]
- ・コツツァ キテラ ゴト シカヘレバ、アレダバ クルビオン (こっちに来てることを知らせれば、あ奴なら会いに来るだろう) [方言集]

#### 〈勧誘形〉

各動詞とも断定非過去形に「ベシ」または「ア」が後接する。「ベシ」のとき、多段型 r 語幹動詞、一段型動詞および「する」は、ルが消失することもある。

- ・カグレオッコ スベシ (かくれんぼしよう) [方言集]
- ・コレデ ヤメルベシ (これで止めよう) [方言集]

#### 〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

- ・ウダル フト ダノ オソドル フト ダノ タノンデキテ (歌う人とか、躍る人とか依頼して) [市史]

#### 〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・モラッタ ホズデ (もらった方で) [市史]
- ・キタ エデ ヤルノ (来た家でやるの) [市史]

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テ(デ)」が後接する。「テ」が「デ」となる条件は断定過去形と同じである。

- ・クシサトーシテ ナンビギモ クシサトーシテ サルケタイデ ホントニ シミ オノアダリ サルケタイデ ワー ソーユーキオグアル。オラッキャ ヨメンナツテ キタイエデ(串に通して、何匹も串に通して、サルケ(泥炭) 焚いて、本当に炭、私の辺りはサルケを焚いて、私はそんな記憶がある。私が嫁いできた家では) [市史]

〈仮定形〉

「バ」「タラ(ダラ)」「タッキャ(ダッキャ)」という複数の形式が存在する。

「バ」は、多段型動詞は「基幹エ段形+バ」、一段型動詞は「基幹+レバ」、「来る」は「基幹ウ段形+レバ」で「クレバ」、「する」は「基幹エ段形+バ」で「セバ」または「基幹ウ段形+レバ」で「スレバ」となる。

- ・アレサ サド サゲ ヘレバ マグネーハンデ(あれに砂糖と酒を入れれば、おいしくなから) [市史]

「タラ」は、多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タラ」が後接する。「タラ」が「ダラ」となる条件は断定過去形と同じである。

- ・ユガラ アカ<sup>°</sup> ッタラ、チャント カラダヌグ<sup>°</sup> ル モンダオン(お風呂から上ったら、ちゃんと身体を拭くものですよ) [方言集]

「タッキャ」は、多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹(=語幹)に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タッキャ」が後接する。「タッキャ」が「ダッキャ」となる条件は断定過去形と同じである。

- ・ダイダド オモッタッキャ キンタダデバ。(誰だと思ったら金多じゃないか。) [市史]

〈否定形〉

多段型動詞は基幹ア段形、一段型動詞は基幹、「来る」は基幹オ段形「コ」、「する」は基幹ア段形「サ」または基幹イ段形「シ」に「ネ」がそれぞれ後接す

る。多段型r語幹動詞は、ラが消失することもある。否定形は、形容詞に準じた活用をする。

- ・テーネーダ イーコドバ ツカネナ(丁寧な良いことばは使わないね) [市史]
- ・トウサン エネダ ハデ、オメエ シッカド サネバ マイネヨ(お父さんが居ないんだから、お前がしっかりしなければ駄目だよ) [方言集]

〈丁寧形〉

多段型動詞、「来る」、「する」は基幹イ段形に、一段型動詞は基幹に「ス」が後接する。「ス」は過去形に「シタ」、命令形に「ヘ」という活用形を持つ。否定形に「ヘン」という形が用いられていたが、現在はほとんど用いられていない。ただし、「ヘン」に「ガ」(共通語「か」相当)がついた「ヘンガ」という形式は化石的に残っており、丁寧な命令として用いることがある。命令形「ヘ」やこの「ヘンガ」に関しては、「来る」のみ命令形に接続し、「コイヘ」「コイヘンガ」という形をとることもある。

- ・ヘバ ウズゲデ、アス ヤスマヘデ モライ ス(そうすればお言葉に甘えて、明日は休ませて戴きます) [方言集]
- ・オデンキ エドゴデ、ヤマサ アスピニ エギシタ(お天気がよいので、山へ遊びに行きました) [方言集]
- ・ブツダンノ アガシコ ケサネデ オギヘ(仏壇の灯明を消さないでおきなさい) [方言集]

〈使役形〉

本文段型動詞はア段形に「ヘル」が、一段型動詞は基幹に「サヘル」「ラヘル」が、「来る」は「コ」に「サヘル」「ラヘル」が、「する」は「サ」に「ヘル」が付く。このうち、「ラヘル」はr語幹化による形式である。「ヘル」「サヘル」「ラヘル」の付く形はいずれも一段型動詞に準じた活用をする。

- ・ンダ ソシテ シラヘルダ(そう、そうやって知らせるんだ) [市史]

〈受身形〉

多段型動詞はア段形に「イル」が、一段型動詞は基幹に「ライル」が、「来る」は「コ」に「ライル」が、「する」は「サ」に「イル」が付く。いずれも一段型動詞に準じた活用をする。

- ・クレバコンダ トロケラエルツキヤ (来れば  
今度は片付けられるでしょ) [市史]

〈可能形〉

可能(肯定)は、2つの形式がある。

一つ目は、多段型動詞は「基幹エ段形+ル」、一段型動詞は「基幹+レル」、「来る」は「基幹オ段形+レル」という形式である(「する」は体系的に欠如しており、「デギル」がその空き間を補充している)。この「ル」「レル」はいずれも一段型動詞に準じた活用をする。

二つ目は、助詞「ニ」が付され、さらに形容詞「イー」が後接するものであり、これはすべての動詞において連体非過去形に後接する。連体非過去形の末尾がルで終わる動詞ではルが消失することもある。また、「ニイー」自体は過去形「ニイクテアッタ(ニイガッタ)」、仮定形「ニイーバ」などの活用を持つが、否定形「ニイグネ」は存在しない。

可能(否定)の場合も2つの形式が存在する。

一つ目は、可能(肯定)の一つ目の形式が否定形となったもので、多段型動詞は「基幹エ段形+ネ」、一段型動詞は「基幹+レネ」、「来る」は「基幹オ段形+レネ」という形式である(こちらにも「する」は体系的に欠如。「デギネ」が空き間を補充している)。

二つ目は受身形と同形のものが否定形となったもので、多段型動詞は「基幹ア段形+イネ」、一段型動詞は「基幹+ライネ」、「来る」は「基幹オ段形+ライネ」、「する」は「基幹ア段形+イネ」である。可能(否定)はすべて形容詞に準じた活用をする。

青森県方言一般に、伝統的には能力可能と状況可能の別があると見られているが、当地では明確に使い分けられてはいない。ただ、否定においては前者のかたち(カゲネ、ミレネなど)が能力不可能に、後者のかたち(カガイネ、ミライネなど)が状況不可能に使われやすいようである。

- ・ヨグ ソー ネニシテスツァ (よくそんなにも寝ることができるね) [市史]
- ・テコ カンケ° エデマテ、ボダン カゲラエネ (手がかじかんでしまって、ボタンが掛けられない) [方言集]
- ・ウエルダツキヤ ナモウエレネ (子供たちが苗を)植えるのは全然植えることができない) [市史]

〈自発形〉

多段型動詞はア段形に「サル」が、一段型動詞は基幹に「ラサル」が、「来る」は「コ」に「ラサル」が、「する」は「サ」に「サル」が付く。いずれも多段型動詞に準じた活用をする。

- ・オソグナツテガラ カラサレバ ソンデツタ (遅くなってから刈ることになれば、そうだった) [市史]
- ・ドシテモ ソゴバレ ミラサル (どうしてもそこに視線が行く) [方言集]

〈尊敬形〉

生産的な尊敬形式を持たない。敬語の使用自体が活発ではない。

〈継続形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は基幹に、「来る」「する」は基幹イ段形「キ」「シ」に、「テ(デ)ラ」をそれぞれ接続する。ぞんざいな発音として「テ(デ)ラ」が「チ(ジ)チャー」になることもあり、また中年層以下では「チ(ジ)ユー」となることもある。

「テラ」が「デラ」となる条件は断定過去形と同じである。また、否定形にも接続するが、このときは「ネクテラ」または「ネンデラ(ネデラ)」となる。

「テ(デ)ラ」が付く形の断定過去形は「~テ(デ)アッタ」、命令形は「~テ(デ)ロ」「~テ(デ)ナガ」、推量形は「~テ(デ)ラベ」「~テ(デ)ラビョン」、中止形は「~テ(デ)アツテ」「~テ(デ)デ」、仮定形は「~テ(デ)レバ」「~テ(デ)アッタラ」「~テ(デ)ダラ」「~テ(デ)アツタツキヤ」「~テ(デ)ダツキヤ」、否定形は「~テ(デ)ネ」である。なお、この「テ(デ)ラ」は存在動詞にも付く。

- ・オエデダバ カツテキテラダ マンダ アルバツテ (うちでは買ってきてるんだよ。まだあるけどね) [市史]
- ・ワ イマ バサマサ キージャダネ (俺は今、婆さんに聞いているんだよ) [市史]
- ・コノ ゴムケリ、アナ アイデラ (このゴム靴は、穴が開いている) [方言集]
- ・デツタラダ マルタ ゴロゴロド コロカ°ツテアッタ (大きな丸太がゴロゴロ転がっていた) [方言集]

- ・ワラシノトギダバ テン ダノテ カネデア ツタ (子供の頃はトコロテンなど食べなかった) [方言集]
- ・オラダジノ クミネ、ジッソウジノ コボコ エデアツタ (僕たちのクラスに、実相寺の小僧さんが在籍していた) [方言集]

#### 〈希望形〉

共通語の「たい」の母音が融合した「テー」が、多段型動詞、「来る」、「する」の場合は基幹イ段形に、一段型動詞の場合は基幹にそれぞれ後接する。希望形はいずれも形容詞に準じた活用をするが、そのとき、語幹末尾が融合形の語幹「テ」ではなく、「タ」を取ることもある。

- ・アケ° ダリ サケ° ダリシテ、ナ ナニ シャベテンズヤ (誉めたり貶したりしているが、君はいったい何を言いたいのだ) [方言集]
- ・ワモ ツキ° コ アダテラ フグ キテミタ クテ アツタ (私も端切れを当てて繕った服を着てみたかった) [方言集]
- ・アンツクタラダ モノ、ツラモ ミタグネ(あんな者、顔も見たくない) [方言集]

#### 〈のだ形〉

各動詞とも、連体形に「ンダ」または「ンズ」が後接する。「ンダ」は形容名詞述語や名詞述語に準じた活用をする。「ンズ」は活用しない。シラビーム方言的特徴により、特に高年層において「ンダ」「ンズ」ともにンが消失することもある。

- ・クロッコ ズーットマワッテ アサグズ (畔をずっと廻って歩くんだよ) [市史]
- ・マゴ° デネヤ、シコ カデデル ンダ (孫でなくて、曾孫を子守しているんだ) [方言集]

## 2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

### 【形容詞】

形容詞の活用の型はひとつである。〈断定非過去形〉において語末母音が融合する形容詞では、〈断定非過去形〉の融合形がそのまま語幹となる例が見られる。総じて連母音アイが生じる「赤い」「高い」などは融合形を作りやすく、連母音ウイ、オイなどは融合形を作りにくい、語によるところが大きい。例えば同じウイでも、「悪い」はワリとなるが、「低い」はヒキーとはならない。また、アイの融合は安

定的にエとなるが、ウイの場合はイ(「悪い」：ワリ)、ウ(「きつい」：キツ)、エ(「ぬくい」：ヌゲ)と安定しない。

#### 〈断定非過去形〉

語幹にイが後接する。上述のように、母音融合が起き、交替語幹が生じることもある。また、融合した母音の代償延長が認められることもあるが、シラビーム方言的特徴により、1拍分保たれず、総じて短い。

- ・ハエズギダッキャ フライパン ネーヨー (昔(時代が早いとき)だったら、フライパンはないよ) [市史]
- ・スク° クルッテ シャベタンズ ナンボ オセエバ (すぐ来ると言ったのに随分遅いな) [方言集]

#### 〈断定過去形〉

語幹に「クテ」が付され、さらに「アツタ」が後接する「クテアツタ」という形式となる。または語幹に「ガッタ」が付く。「クテアツタ」は、クの音は母音が無声化し、子音は閉鎖の弱化が起こり、フあるいはシ(ス)のような音になることもある。

- ・ジダイ イマ スンデラハンデ ホンダバ タッテ ケッコ ソレマダ オモシロシ テアツタエノ (今は時代が進んでいるからそうだけど、結構それも面白かったよね) [市史]
- ・ハラヤンダッキャ ヘズネエガッタ デャア (お腹が痛かったので、苦しかったよ) [市史]
- ・ユベナノ フギ、シデクテ アツタナ (昨夜の吹雪は、ひどかったね) [方言集]

#### 〈推量形〉

断定形に「ベ」または「ビョン」が後接する。「ビョン」は「ベ」+終助詞「オン」に由来するもので、「ベオン」「ベヨン」「ビョン」などのように発音されることもある。

- ・モデベ、ワ モヅガ (重いだろう、私が持とうか) [方言集]
- ・ジサマノ アワへ、オメサ チョンド エエ ビョン (祖父の着た袷の着物、お前にちょうど好いだろう) [方言集]

#### 〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形である。

- ・イマダバ ミナヤ クレニ フグ ダバツテ

スツァ（今は皆、黒い服だけどね）[市史]

〈連体過去形〉

断定過去形と同形である。

- ・イヂバン キビ エシテアツタノ、トナリデ  
カマド ケシタトギ（一番嬉しかったのは、  
隣の家が破産したとき）[方言集]

〈中止形〉

語幹に接辞「クテ」が後接する。クの音は母音が無声化し、子音は閉鎖の弱化が起こり、フあるいはシ（ス）のような音になることもある。

- ・キョウ カッジェネクテ モサモサ ユキフ  
ツテラノ（今日は風がなくて、モサモサと雪  
が降っているね）[市史]
- ・コノニグ シネフテ カマエネデア（この肉  
は筋張って、噛み切れないよ）[方言集]

〈假定形〉

断定非過去形に「バ」が後接する。または語幹に「ガツタラ」が後接する。

- ・アガリバ メネデ、クレエバ メルモノ ナ  
ーンダ（明るいと見えないで、暗いと見える  
ものなーに）[方言集]

〈否定形〉

語幹に「ク（グ）」が付され、さらに「ネ（ネー）」が後接する。「ネ（ネー）」自体は形容詞に準じた活用をする。

- ・アメノ リンコ°、ヤ斯巴テ メグネエ（ア  
メリカ産の林檎は、値段は安いけど不味い）[方  
言集]
- ・ヘナガ モソモソテ アズマシグネ（背中が  
むず痒くて気持ちがよくない）[方言集]

〈なる形〉

語幹に「ク（グ）」が付され、さらに「ナル」が後接する。「ナル」自体は多段型r語幹動詞に準じた活用をする。

- ・オメノアダマ ズンブ ウスグナツタナア  
（あなたの頭は、ずいぶん薄くなったなあ）  
[市史]

〈副詞形〉

語幹に「ク（グ）」が後接する。

- ・スコシ キツグシャベツタガナ。ツラツギシ  
テサア（少しきつく言ったかな。怒った顔し  
てね）[市史]

〈断定非過去形（一時的状態）〉

共通語には見られないものとして、一時的にそのような状態・性質にあることを表す表現がある。これは語幹に「クテラ」が後接する。例えば下の「マミシクテラガ」を例にとると、“今、「マミシ（達者である）」状態にあるか”を問うているわけである。「クテラ」のクの音は母音が無声化し、子音は閉鎖の弱化が起こり、フあるいはシ（ス）のような音になることもある。

- ・オメエダノ オガサ、マミシクテラガ（〈他家  
の人が〉お前さんとこの女主人は達者ですか）  
[方言集]
- ・ヘンヘ メッタネ ヨワエシテラナ。ナモヤ  
アメコ カヘデランダネ（大将、めったに弱  
いね〈押され気味だね〉。いやいや、わざと負  
けて油断させているのさ）[方言集]

〈丁寧形〉

古くは語幹に「ゴス」が付されていたが、近年はあまり用いられない。近年は共通語と同じように、断定形に「デス」が後接する。このとき、上述の交替語幹は出現しにくい。

- ・ソンキノ ニモツコ ハゴブンダバ、タワエ  
ネゴス（それ位の荷物を運ぶんだったら、た  
わいない事です）[方言集]

〈のだ形〉

連体形に「ンダ」または「ンズ」が後接する。「ンダ」は形容名詞述語や名詞述語に準じた活用をする。「ンズ」は活用しない。シラビーム方言的特徴により、特に高齢層において「ンダ」「ンズ」とともにンが消失することもある。

- ・リンコ°、ナメラ ツデラホウ メエン ダ  
（林檎は、傷跡のある方が美味しいんだ）[方  
言集]
- ・ワ アシノシタ ダバ、サワラエデモ ナモ  
モチョクチェグ ネンズ（私は足の底だと、  
触られても何も擦ったくないんだ）[方言集]
- ・ナエオ タンバネデ アルガネバ マイネズ  
（苗を束ねていかなければならないの）[市  
史]

【形容名詞述語・名詞述語】

形容名詞・名詞ともにほぼ同じ活用となる。

〈断定非過去形〉

形容名詞・名詞に「ダ」が後接する。

- ・タゴノ プンプノオド キケデクレバ、フユモ オワリダ (風の唸りの音が聞えて来れば、冬も終わりだ) [方言集]
- ・ヤッパリ コレモネバ フンジュウダ(やっぱりこれもないと不自由だ) [市史]

〈断定過去形〉

形容名詞・名詞に「デアッタ」または「ダッタ」が後接する。

- ・アサマ オニヤ ハグノ、ワノ シコ<sup>°</sup>ドデアッタ (朝起きたら玄関前の庭を掃くのが、私の仕事だった) [方言集]
- ・コドシ ニカイ ニュウイン シタテラバテ、ワリト ゲンキデアッタ (今年二回入院したとってたが、割合元気だった) [方言集]

〈推量形〉

形容名詞・名詞述語の断定形に「ベ」または「ビョン」が後接する。「ビョン」は「ベ」+終助詞「オン」に由来するもので、「ベオン」「ベヨン」「ビヨン」などのように発音されることもある。

- ナンボ アヘツガシ ワラシダベナ。スコシダマッテ スワテシナガ (なんて落ち着きのない子供だろう。少し黙って座ってなさい) [方言集]
- ・ゲンバデ ジコオギダテラ バテ、エノ オド ダイジョウブダベガ (現場で事故が起きたそうだが、うちの親父は大丈夫だろうか) [方言集]
- ・ナオネ ビョウキダズモノ、アエダケア ナガナオリダビョン (治らない病気だそうだから、あれは一時的な回復だろうよ) [方言集]

〈連体非過去形〉

形容名詞は断定非過去形と同形であり、断定形と連体形の区別がない。「ダ」ではなく共通語同様「ナ」が後接する場合もあるが、「ダ」のほうが伝統的である。

- ・コシタサ オッキー シカグダ コー カダアルダネ (こういう大きくて四角い、こう、かたがあるんだよ) [市史]
- ・アマリ カッテダ ハナシ スドゴデ、ムカメデ キタ (あんまり身勝手な話をするので、

むかつて来た) [方言集]

名詞は、共通語同様、名詞に「ノ」が後接する。

- ・バサマ ホドギモノ スルドギ、ギンブヂノ メガネコ カゲデ アッタ (老母は着物の仕立直しに解きものをする時は、銀縁の老眼鏡をかけていた) [方言集]

〈連体過去形〉

形容名詞・名詞ともに断定過去形と同形である。

〈中止形〉

形容名詞・名詞に「デ」が後接する。

- ・シレエ ハダコ イジメデ、タギサ ウダエデラ (白い肌着一枚で、滝に打たれている) [方言集]
- ・アレアマダ チャカシデ、ナンサデモ ハチャカ<sup>°</sup> テ エグ (あ奴はまたおっちょこちょいで、何にでも首を突っ込んで行く) [方言集]

〈仮定形〉

形容名詞・名詞に「ダバ」または「ダツタラ」が後接する。

- ・ハヂジュウデ ソンキ ゲンキダバ タイシタモンダ (八十歳でそれぐらい元気なら、たいしたもんだ) [方言集]
- ・エノナガダバ フトリデ アグネ エンダ (家の中だと一人で歩けるんだ) [方言集]

〈否定形〉

形容名詞・名詞に「デ」が付され、さらに「ネ (ネー)」が後接する。「ネ (ネー)」自体は形容詞に準じた活用をする。

- ・アラド トシコ<sup>°</sup> デネフテ、フタコ<sup>°</sup> ダネ (あれ達は年子でなくて、双子だよ) [方言集]
- ・ガカラッテバ、トップノ カントグセギンダテ サワク<sup>°</sup> ノ、アンマリ スギデネ (何かチョットした事が起ると、トップの監督責任だと騒ぐのは、あまり好きじゃない) [方言集]

〈なる形〉

形容名詞・名詞に「ニ」が付され、さらに「ナル」が後接する。「ナル」自体は多段型r語幹動詞に準じた活用をする。

- ・トリゴト オゴラヘレバ、キノゴ マツカネナル (鶏を怒らせると、とさかが真っ赤にな

る) [方言集]

- ・オエノ オヤジ シロウマ タデテ アッタ  
ンデ アラ トノサマニ ナツタリシテ (う  
ちの父親、白馬飼っていたから、殿様になっ  
たりして) [市史]

#### 〈副詞形〉

形容名詞に「ニ」が後接する。

- ・シズガニアイガネデ ガツガツアルグヒトイ  
ル (静かに歩かないでガツガツ歩く人がいる)  
[市史]

#### 〈断定非過去形(一時的状態)〉

形容詞述語同様、形容名詞・名詞述語にも一時的状態を表す表現がある。これは、形容名詞・名詞に「デラ」が後接する。

- ・オド ゲンキデランダベ (親父さん、元気で  
いるんだろう) [方言集]

#### 〈丁寧形〉

形容名詞・名詞に「デス」が後接する。「デス」自体も活用し、過去形「デシタ」をもつが、否定形「デヘン」は現在ほとんど用いられていない。

- ・アコダバ アズマシ カマド デスネ (あそ  
こなら、裕福な所帯ですよ) [方言集]

#### 〈のだ形〉

形容名詞・名詞ともに「ダ」が付され、さらに「ンダ」または「ンズ」が接続する。「ダ」ではなく「ナ」が付される場合もあるが、「ダ」のほうが伝統的である。「ンダ」は形容名詞述語や名詞述語に準じた活用をする。「ンズ」は活用しない。シラビーム方言的特徴により、特に高齢層において「ンダ」「ンズ」ともにンが消失することもある。

- ・コーユー シノッコ ダンダ (こういうシノ  
〈粉ふるい〉なんだ) [市史]
- ・ヒトツノ ハガナズサ (ひとつの分担なん  
だよ) [市史]

#### 用例出典

- 市史：佐藤和之(編著)(1997)「五所川原市史 言語編」五所川原市(編)『五所川原市史 史料編3 下巻』五所川原市
- 方言集：成田秀秋(2002)『木造町方言集—青森県西津軽郡一』青森県文芸協会出版部

#### 参考文献

- 此島正年(1968)『青森県の方言(新版)』津軽書房
- 此島正年(1982)「青森県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一(編)『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 佐藤和之(編著)(1997)「五所川原市史 言語編」五所川原市(編)『五所川原市史 史料編3 下巻』五所川原市
- 佐藤和之(編)(2003)『日本のことばシリーズ2 青森県のことば』明治書院
- 田附敏尚(2004)「青森県津軽方言における動詞の活用」東北大学大学院文学研究科修士論文(未公開)  
(田附敏尚)